

令和3年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験 番号	
----------	--

【一】 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

学校では、クラスの友だち同士で小グループを作って、休み時間などはいつも一緒に活動するということがよく見受けられます。その時よくありがちなのが、親しいはずなのに、その場にはいない友だちの悪口を言うということです。

① これは今に始まったことではありません。社会学の考え方で、スケープゴートの理論というものがあります。

「スケープゴート」というのは、そもそもは旧約聖書の中に出てくる、※1贖罪用の山羊やまのことです。旧約聖書の時代には、人間の罪を山羊に背負わせて荒地に放す、という宗教的な儀式がありました。つまり生贄いけにえですね。そこから転じて、人々の憎悪や不安、※2猜疑心などを、一つの対象（個人や集団）に転嫁して、ホコサキaをそちらにそらせてしまうことを、②「○○をスケープゴートにする」などと言います。さて、親しい友だちであるはずなのに、なぜこんなことをするのでしょうか。

これは、第三者（ここにいない、私とあなたそれ以外の人のこと）を排除することによって、その場の「あなたと私の□□を確認しあう」ということなのです。A子さんとB子さんがいたとして、そこにいないC子さんの悪口を言って盛り上がることによって、A子さんとB子さんは、その場の親しさを再確認しているわけです。こういうことは、よくあることなのです。

《A》、こうした振舞いは、この二人に③新たな不安を引き起こしがちなのです。その不安というのは、今度はいつ自分が排除される側にまわるか分からないということです。この結果またまた不安が増幅して、ますます固まるわけです。

私も、こんな光景を見たことがあります。

息子や娘がまだ幼稚園に通っているころ、私はよく送り迎えをしていました。その時、いつもお母さん方が、ひとかたまりに群れてお話をしていました。子どもたちはとくに教室の中に入ってしまっているのに、お母さん方はほとんど帰らず、多くの人がその場に残って延々とおしゃべりが続いているのです。お父さん方なら、お役目が済めば「じゃ、また」とすぐに帰りそうなものです。

私の妻にその話をするに「あれはその場にはないとなく不安になるからかな。本当は、毎日毎日何十分もお話なんかしたくない人だっているでしょうに、その場にいないと何を言われるかわからないからなのかしら」と言うのです。

《B》、みんなが知っていて自分だけが知らないという状態を極端bに恐れる、ということもあるようです。たいした内容の情報でなくても、情報を共有していないと、そのことだけで排除されるきっかけにつながりかねないからです。

このように、ある種のグループでは、いつも関係を密にしていけないと、いつ排除されるかわからない不安がつきまといまいます。不安になるから、ますます固まって一緒にいる。

学校の先生の立場から見ると、「あの子たちはいつも一緒にいてすごく仲がいいんだな」なんて思える子どもたちの集団でも、よくよく話を聞いたり、様子をうかがってみると、じつは非常にキンチョウした状態でいつも一緒にいるという場合があります。もちろん別に仲が悪いわけではなくて、一緒にいて楽しいこともあるのだけれども、いつのまにか「そこにいないと不安になるから、陰口をたたかれるのが嫌だから一緒にいる」という状態におちいつている可能性もあるのです。

その発展形といえるかもしれないのですが、最近私がちょっと気になっているのが「携帯メール」を介したコミュニケーションです。とりたてて用事もないのに、しょっちゅうメールのやりとりをしている人がいますね。

メールを送ったら、どれぐらいすばやく「即レス」してくれるかで、相手の友情や愛情を測ってしまう人も多いようです。返信が遅れたりすると、「なんですぐ返してくれなかったの?」「○○君の私への気持ちって、その程度だったの?」となるわけです。

これはじつは、非常に心が休まらない状態をお互いに作りあってしまったていることになりはしないでしょうか。

メールを出したほうは、返事が遅いと不安になる。受けるほうは、即レスをしなければならぬというプレッシャーがかかっている。そしてお互い、「友だちなのだから、あるいは付き合っているのだから、毎日メールのやりとりをしなければならぬ」ということになる。本当は幸せになるための「友だち」や「親しさ」のはずなのに、その存在が逆に自分を息苦しくしたり、相手も息苦しくなっていたりするような、妙な関係が生まれてしまうことがあるのです。

私はそれを「同調圧力」と呼んでいます。

「同調圧力」という言葉を私の研究室のゼミで使ったとき、教え子の女子学生がこう言いました。「先生、私の高校時代は、まさに『同調圧力』に悩まされ続けた三年間でした!」

——とにかくいつも一緒に行動していきやいけない雰囲気があつて、それがとても重荷だった。抜け出すにも抜け出せないし、距離を少しでもとろうとすると「なんか冷たい」とか、「今までとちよつと違う」などと言われ、いついじめの対象になるかわからない。距離をとって孤立するのも怖い。そんな毎日——だったのだそうです。それが、大学に入ってからかなりの程度解放されて、「人は人、自分自分」という雰囲気が出てきたので、とても楽になったそうです。

⑤「同調圧力とどう折り合いをつけるかが私のテーマだったんだと、いまはつきりわかりました」と、彼女は長年の胸のつかえがとれたように言いました。

今までもやもやと不快だったことが、こういうキーワードを与えられることでスッキリすることがあります。

この場合の彼女も、それまでは、仲間に入れてくれて、いつも誘ってくれるグループのみんなに対して、「息苦しい、距離を置きたいと思っ

ているのは、自分に協調性がないからなのだろうか?」「友だちだと思ってくれている彼女らに対して悪いのではないか?」「でも息苦しい、たまには一人で行動したいけど、その気持ちをうまく言えない」と、ずっと悩んでいたのではないのでしょうか。

同じ年代の若者が集う同質の集団である学校という場合は、どうしても同調圧力が高まる傾向が強いようです。

自分の好みとは関係なく、みんなと同じような制服の着崩し方をしたり、今流行のバッグなどを友だちといっしょに持ったりする、またその時期に流行っている若者言葉をつい使おうとする——本当に自分で選んでそうしているというよりも、一人だけ浮いてしまうのが怖い、ノリの悪いヤツと思われるのは嫌だから、つい周りに合わせてしまうことはありませんか。

いろいろな形はあるにせよ、私たちの身の周りには、さまざまな種類の同調圧力が張り巡らされているのです。

これは何も学校だけの話ではなく、大人の世界にもあります。職場でも毎日習慣的に同じメンバーでお昼を食べに行ったり、「公園デビュー」した後のお母さん同士のつきあいに、同調圧力を感じている場合もあるでしょう。

(菅野 仁 『友だち幻想』を一部改題)

※1 贖罪 — 金品を出したり、善行を積んだりして罪をつぐなうこと。

※2 猜疑心 — 相手の言動などを疑う気持ち。

問一 { a } d のカタカナは漢字に、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 「排除」の対義語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 消去 イ 受容 ウ 協同 エ 委託

問三 《A》・《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア さらに イ けれど ウ たとえば エ なお オ すなわち

問四 □にあてはまる語を文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問五 — ①「これ」が指す内容を文章中から三十文字以内で抜き出して書きなさい。

問六 — ②「○○をスケープゴートにする」とありますが、その意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号

を書きなさい。

ア 人々の不満などを抑えるために、状況をわざと悪化させてごまかすこと。

イ 人々の憎悪などを排除するために、ある対象を負の感情の浄化に使用すること。

ウ 人々の悪意などをそらすために、ある対象に責任を押し付けて身代わりをすること。

エ 人々の不安などを解消するために、ある対象を英雄として持ち上げて利用すること。

問七

——③「新たな不安」とありますが、それはどのような不安ですか。文章中の語句を用いて二十字以内で説明しなさい。

問八

——④「妙な関係」とありますが、そのような関係になってしまふのはなぜだと考えられますか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 本来親しい関係であるはずが、メールの文面だけのやりとりでは感情の伝わり方に誤解が生じてしまうから。

イ 本来仲の良い関係であるはずが、毎日やりとりしなければならぬという義務感に重圧を感じてしまうから。

ウ 本来利害が一致した関係であるはずが、即レスによってお互いに害しか与えられなくなっているから。

エ 本来一緒にいると楽しい関係であるはずが、即レスの内容によってお互いの悪いところが見えるようになるから。

問九

——⑤「同調圧力とどう折り合いをつけるか」とありますが、女子学生はどのようにして折り合いをつけましたか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分と周囲を比べるをやめ、関わりを断つこと。

イ 自分は周囲の人々に理解されなくてもよいと思うこと。

ウ 自分は周囲よりも変わった人間であると自覚すること。

エ 自分と周囲の人々は、違う人間であると割り切ること。

問十

この文章を読んだ四人の生徒がそれぞれの解釈を述べ合いました。筆者の意見を正しく解釈しているものとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 生徒A——筆者は、その場にはいない人たちの悪口を言うことについて長年に渡り問題視されているいじめ問題のテーマであると述べているね。

イ 生徒B——筆者は、周りの反応を気にして、自分の意見を言えなくなることはどのコミュニティでも起こる可能性があるかと主張しているよ。

ウ 生徒C——筆者は、「携帯メール」を介したコミュニケーションは、顔が見えないからこそ相手に思いを伝えやすいもの

であると考えているね。

エ 生徒D——筆者は、「同調圧力」について、相手を思いやる心がやり取りを続けるうちに悪意や圧力に変わったと解釈しているね。

問十一 「同調圧力」の具体例として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア クラスで人気があるAくんはみんなのアイドルなので、抜け駆けして話しかけないという暗黙のルールがある。
- イ 授業中の携帯電話の使用は校則で禁止されているため、違反することがないようにきちんとルールを守っている。
- ウ クラス替えがあるたびに、仲の良い友だちと離れて自分だけ違うクラスになってしまうのではないかという不安を感じる。
- エ 文化祭のクラスでの模擬店の話し合いで案が一つしか出ていないときに、積極的に別の案を主張した。

【二】 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

巧が座長を務める劇団シアターフラッグに入団希望者である羽田千歳（二十五歳・女性）が訪ねてきた。「こんにちは」の一言にできる限りのバリエーションをつけるとい入団テストに対し、彼女が見せた演技は劇団員全員の意表をつくものだった。

——全員が言葉をなくした。

バリエーションをつけるといったら、シチュエーションを変化させるのがI^a的だ。ところが彼女は台詞を喋る人物の側を変化させたのである。子供から大人、そして女と男まで。彼女の声に現れなかったのは熟年男性くらいのものである。さすがに声質の限界があるのだろう。それにしても——広い。

これはすこい逸材が来た、とみんな色めき立った。

《 動きをつけた課題では精彩を欠いた。》

悪くはない。水準はクリアしている。だが、それ以上のものではなかった。基本をしっかりと勉強している感じはあるが、勉強したことをきちんとやっています的な硬さがそこかしこに見える。

台詞の巧うまさと動きの硬さがアンバランスで、良くも悪くもⅡ 的だった。

「どう見る、あれ」

「台詞は巧いんだけどなあ。台詞が巧いだけに動きが悪くなると不自然さが際立つな。おい、女優から見ようよ」

「稽古けいこである程度は調整つくと思うけど……いきなり上達は無理でしょ、そんなの誰だって不可能よ」

「でも、あの声に動きが追いついたら化けるぜ」

「将来楽しみな物件ではあるな」

テストが終わって好き勝手に論評ろんひやうしていた仲間の一人が、空港名を足しっぱなしした冗談のようなその名前に覚えが有ると言い出した。

羽田千歳。

名前を検索すると、その正体はプロの声優だった。

「うわっ、何だこの芸歴！ めっちゃ売れてね!」

二十五歳にして既に十年以上の芸歴があった。滑り出しは児童劇団で、途中で声優にシフトしたという。主役こそ少ないが重要なレギュラーキャラクターを演じることが多い実力派らしい。

台詞が巧いわけである。

「なあ、ファンけっこうついてるらしいぜ。集客期待できるんじゃない?」

仲間が言ったような計算もあつたことは否定しない。

だが、巧うまは履歴書りふれきしょの志望動機を確認した瞬間、採用たうようすることを決めていた。

志望動機の欄には、いかにも女の子っぽい丸文字で――

『演劇を見慣れていない人でも気軽に楽しめる分かりやすいブタイクがとても好きです』

そう書いてあつたのだ。

春川巧の脚本は分かりやすすぎる、といつも批判されていた。

軽い。 A 。 B 。

客が単純に笑って帰れる芝居があつてもいいじゃないか。

分かりやすくして何が悪い。誰にでも分かる芝居で何が悪い。そう思つてはいたものの、まともに批判が耳に入るといつも揺らいだ。おもしろかった。けど軽いから減点。

コウエン^dのアンケートでこんな感想が返ってくると泣きたくなった。シアターフラッグの持ち味は軽快さだ。軽さによるおもしろさを楽しんでおきながら、軽いことが悪いと言うのならどうすればいいのか。

軽快という価値観は最後の最後でどうしても^{※3}瑕疵^{かし}になるしかないのか。だとすれば自分は永遠にキズモノしか作れない。仲間をキズモノづくり^{※3}に付き合わせることはできない。

けれど、羽田千歳はそんなシアターフラッグを好きだといって応募してきたのだ。

声優と役者は分野が違う、しかし分野は違っても芸事で食っているプロが自分たちの芝居を好きだと――

俺の書いたものは、俺たちの作っていたものは、ちゃんとプロに届くんじゃないか。十年以上も芸事でメシを食ってきた羽田千歳に届いたんじゃないか。

――なら、俺も。

届くのならそこへ行きたい。彼女がやってきたその世界へ――自分の芸で金を稼ぐプロの世界へ。

^④自分たちを認めてくれた彼女と同じ場所に立ちたい。追い着きたい。

仲間たちもその思いを分かってくれと信じていた。

(有川 浩 『シアター―』より)

※1 逸材 ―― すぐれた才能。また、それを持つ人。

※2 履歴書 ―― 就職試験の際に提出する書類。自分自身の経歴を記す。

※3 瑕疵 ―― きず。欠点。

問一 〰〰 a d のカタカナは漢字に、漢字は読みをひらがなに直して書きなさい。

問二

I	・	II
---	---	----

 にあてはまる語を次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア 特殊 イ 一般 ウ 印象 エ 客観 オ 主観

問三 〰〰 「色めき立った」とはどのような様子ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 興奮した様子。 イ 悲しんでいる様子。 ウ 笑っている様子。 エ 冷静な様子。

問四 《 》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア たとえば イ そして ウ ところが エ だから

問五 — ①「だが、それ以上のもではなかった。」とありますが、なぜそのような感想をもったと考えられますか。その理由を解
答欄にあうように文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

問六 — ②「採用することを決めていた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中
から選び、その記号を書きなさい。

ア 分野は違っても芸事で食べているプロが、自分と同じ価値観で劇団を評価してくれているとわかったから。

イ 声優業に就いている千歳にはすでにファンがいるため、たくさんの集客を期待できると考えたから。

ウ 声を自在に使い分け、台詞を喋る人物の側を変化させるといふ力を発揮してくれると思ったから。

エ 履歴書の筆跡から千歳の勉強熱心で真面目な人柄が伝わってきたから。

問七

A

・

B

にあてはまる語を次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。(順不同)

ア 筋道が通っていない イ 大げさすぎる ウ うすつぺらい エ リアリティがない オ 深みがない

問八 — ③「そこ」とはどこを指しますか。文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

問九 — ④「自分たちを認めてくれた彼女と同じ場所に立ちたい。」とはどのような思いですか。「同じ場所」とはどこかを明らか
にし、文章中の語句を用いて二十字以内で書きなさい。

問十 文章中から、巧の脚本づくりに対する信念が端的に表れている一文を三十字以内で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。

【三】 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

① ここに、六十の露消えがたに及びて、更末葉のやどりを結べる事あり。
(ここで、六十歳という露のような命が消えようとする頃になって、もう一度改めて最後に住むべき家をかたちづかった。)

いはば、旅人の一夜の宿をつくり、老たる蚕の繭をいとなむがごとし。是を中ごろの栖に比ぶれば、又百分が一に及ばず。
(これ※1 すみか なち (作る))

とかく言ふほどに、齢は歳々に高く、栖は折々に狭し。その家のありさま、世の常にも似ず。
(※2よはひ としどじ (住まいが変わるたびに狭くなる) ※3 (世の普通の家とは違っている))

広さはわづかに方丈、高さは七尺がうち也。所を思ひ定めざるが故に、地を占めてつくらず。
(※4 (場所をきちんと決めて引っ越したわけではないため、地面を整えて作らなかった))

土居を組み、打覆を葺きて、継目ごとに懸金を懸けたり。若心にはぬ事あらば、やすく外へ移さむがためなり。
(※5つちある ※6うちをほふ ※7つぎめ (簡単に))

その改めつくる事、いくばくの煩ひかある。積むところ僅かに二両、車のちからを報ふ外には、
(どれほどの面倒があるか、いや、ない) (車に積めば、わずかに二百分、車の力を借りたことに報酬を支払う以外には)

さらに他の用途いらす。いま、日野山の奥にあとを隠してのち、東に三尺余の庇をさして、柴折りくぶるよすがとす。
(まったくほかの費用はいらない) (塗をくらし、世間から離れて暮らして後) (※8ひさし (柴を折って火にくべる時、雨に濡れないようにした))

南竹の簀子を敷き、その西に閑伽棚をつくり、北に寄せて障子をへだたてて阿弥陀の絵像を安置し、そばに普賢を画き、
(すのこ ※9あかだな (普賢菩薩を飾り))

まへに法花経を置けり。東のきには蕨のほとろを敷きて、夜の床とす。西南に竹の釣棚をかまへて、くろき皮籠三合を置けり。
(ほけきしょう ひむがし ※10 (黒い革張りの竹か三つを置いた))

すなはち、和歌・管弦・往生要集ごとき抄物を入れたり。かたはらに琴・琵琶各二張を立つ。いはゆる折琴・継琵琶、これ也。
(せもつ (書物) (おのの (い) わゆる折琴、継琵琶である))

③ 仮の菴の有様、かくの事し。
(いほり (こと))

※1 中ごろの栖―筆者の前の住居。

※2 齡―年齢。

※3 方丈―一丈(約三・〇三メートル)四方。

※4 尺―長さの単位。一尺は、約三〇・三センチメートル。

※5 土居―材木。

※6 打覆―雨露をしのぐ簡単な屋根。

※7 継目―柱のつなぎ目。

※8 庇―日光・雨などを防ぐため、建物の窓などの上に張り出した小屋根。

※9 闕伽棚―仏前に供える水や花などを置く棚。

※10 ほとろ―わらびが長くなり過ぎたもの。

問一 〰〰〰を現代かなづかいで書きなさい。

問二 〰〰〰―①「ここに、六十の露消えがたに及びて、更末葉のやどりを結べる事あり。」とありますが、この様子を筆者はどのような比喩で表現していますか。文章中から一文で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。

問三 〰〰〰―②「その家のありさま、世の常にも似ず。」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 家の様子を説明したものとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 地面を十分に整えて建てておらず、床が斜めになっている。

イ 広さはあるものの、天井が低い造りになっている。

ウ 部屋の中は狭く、簡素な屋根や骨組みになっている。

エ 質素な材木で建てているが、風雨をしのげる造りになっている。

(2) 筆者がこのような家を建てたのはなぜですか。その理由を文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

——③「仮の菴の有様、かくの事し。」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「仮の菴」の室内の配置として適当なものを次のア～カの中からすべて選び、その記号を書きなさい。

ア 東側には約1メートルの雨よけを作っている。

イ 北側には竹のすのこを敷いている。

ウ 南側には阿弥陀仏を安置し、その前に法花経を置いている。

エ 西側には和歌・管弦・往生要集のような書物を保管している。

オ 東側の端に長くなりすぎたわらびを敷いて寝床にしている。

カ 西南のつり棚には皮籠を置いて、その中に琴を入れている。

(2) 「仮の菴」を建てることについて、筆者の思いとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 新たな住まいを形作ることが筆者にとつての生きる希望となっている。

イ 小さく簡略化された住まいを立て直すことを嫌だと思っていない。

ウ 快適な暮らしのために部屋の配置を工夫することを一番大切にしている。

エ 広い部屋だと落ち着くことができないため、家探しに苦労している。